

## 先生のための16のことば

スクールアドバイザー

原田 孝

### 第3回 「保護者面談、伝えたいことは最後にする」

保護者さんが担任や学校教員の面談に来られるときは、すごく足が重いということを知っておいてください。定期的な懇談会でも、担任の先生からは普段の学校での生活などをよくきかされます。どんなにいい子と書いていても、ご自分のお子さんへの評価を聴くのは怖いものです。ましてや家では、保護者さんの言うことはきかず、反抗はする、夜に出歩く、夜更かしはするし、ゲーム三昧。そのようなお子さんをみていると、先生に何を指摘されるか、それは保護者さんとしては恐怖でありハードルの高い面談となります。

そこで保護者さんの信頼を得る面談とはどのようなものかを考えてみましょう。第一段階としては、学校での様子を一分程度話します。エネルギーの十分あるお子さんなら、「元気なお子さんですね。活発な様子ですよ。」くらいの表現にします。対人関係の苦手なお子さんなら、「落ち着いたお子さんで、周りの子さんをよく見てらっしゃいます。」などと表現します。机に向かって本をよく読んでいるお子さんなら、「読書がお好きなようですね。」などのプラス評価をしておきます。

次に、第二段階として、キーワードを言います。「おうちでのご様子はいかがでしょう」ほとんどの保護者さんは、「うちで、そんなことはないですよ。……」と困りごとが次々と出てきます。その困りごとを受容的に聞いていると、家庭内での複雑な関係が見えてくることがあります。夫婦間の問題まで見え隠れすることがあります。そのような話まで聞いたら、保護者さんの担任の先生への印象は、「この先生は聞いてもらえた。不安や困難さを聴いてくれた。」という印象を持ってもらえ、同時に信頼も生まれます。

そこで第三段階です。共感と同時に面談で伝えなければならないことが、担任にはあります。成績であったり欠席や遅刻の状況です。成績に関しては、できているところから話をします。よくがんばってるところを話します。できていないところはこんな表現が良いではないでしょうか。「この教科は、まだ伸びしろがありますね。」など、できる限りマイナス評価に聞こえないような指摘をします。

欠席や遅刻は、多いとか少ないとか言わずに、欠席の理由、遅刻の理由を聞いてあげてください。「朝、なかなか起きられないんです。」というような答えなら、起きられない状況を聴きます。お母さんとバトルになるとか、ボーとしていて布団から出てこないとか、起きてきても動きがほとんどないとか、様々な状況が話されてくるでしょう。それら、一つひとつに丁寧に応えてあげることができれば、いいのですが、経験の浅い先生方は、起立性調節障害の疑いや思春期の反抗がベースにあることがうかがえるので、スクールカウンセラーを紹介された方がいいかもしれません。

面談後に、保護者さんが「この先生は話を聴いてくれた。」「いいアドバイスをもらえた。」という印象を抱いてもらえれば成功です。信頼関係の構築が少し進んだということが出来ます。

教育現場では様々な出来事が起こります。その際には保護者さんを見捨てて対応はできません。ご家庭での協力が得られると対応の効果は大きく進みます。そのためにも普段からの保護者さんとの信頼関係は必ず作っておく必要があります。

「保護者面談、伝えたいことは最後にする」